

亀岡社保協第 15 回総会を開催

亀岡市社会保障推進協議会は、4 月 17 日（日）にギャラリーかめおか研修室において**亀岡市社会保障推進協議会第 15 回総会・記念講演会**を開催しました。総会には 11 団体、25 名が参加しました。

2021 年度の活動と経過報告では、亀岡市の異常な**生活保護行政問題**に対する**取り組み**が報告されました。弁護士、研究者、専門家の協力と亀岡市民の会の共同の取り組みを通して、(1)申請相談時の同行・同席拒否を撤回させたこと(2)違法あるいは不適切と思われる取扱いおよび高圧的な対応を改めさせたこと(3)決定通知書を通知内容がわかるよう改善させたことなど一定の成果を作り出したことが報告されました。

また、2021 年度重点要求の取り組みでは、亀岡市との懇談で(1)**2022 年度国民健康保険料**の据え置きを表明させたこと(2)**加齢性難聴補聴器補助**について補聴器の必要性を確認し、今後調査研究することを表明させたことが報告されました。

2022 年度の取り組みでは重点課題として、(1)2021 年度に引き続き**生活保護行政問題**に取り組むこと(2)**加齢性難聴補聴器補助の取り組み**を、亀岡年金者組合とも協力して議会請願行動などに取り組むことが提起されました。また、社会保障について基本的な理解を深めていくことを目的に、4 回にわたる**社会保障入門講座**を開催することが提案されました。組織拡大では、**個人会員 100 名**の亀岡社保協を目指すことが提案されました。

討論では、亀岡生健会から生活保護行政問題の取り組みについて、亀岡市の対応に一定の改善がみられること、今回の取り組みが利用者、研究者・専門家、市民の会の共同の取り組みの成果であり、亀岡市で取り組みの力量を一層強化していくことが必要との発言がありました。共産党亀岡市議会議員団からは 3 月市議会で、京都社保協からの請願を受けて「介護職員の処遇改善等を求める意見書」が採択された経過が報告されました。

総会議案の(1)2021 年度の活動と経過(2)2021 年度決算報告(3)会計監査報告(4)2022 年度の取り組み(5)2022 年度予算案が採択されました。

2022 年度役員に西森睿治会長、藤村進副会長、中井和夫事務局長、藤野広司、並河愛子各事務局員、片山輝夫、松野絹子各会計監査が拍手で確認されました。

総会記念講演

私たちの暮らしと社会保障制度～人権保障の視点から～ 京都府立大学村田隆史准教授

京都府立大学村田隆史准教授に「私たちの暮らしと社会保障制度～人権保障の視点から～」と題して記念講演をしていただきました。

講演では、政府が進める今日の社会保障改革の方向として、・総論では賛成しやすく反対しづらい・平均を有効活用する・世代間対立や制度の利用者間対立をあおることによって、社会に分断と対立を引き起こし、社会保障改革への対抗軸を見えにくくしていると指摘。社会保障改革に対抗できる理論と実践を作っていくためには現場から人権としての社会保障という視点を掲げ、組織間・世代間・個人間の対立を乗り越える一致点を見出すことが必要であると、私たちの取り組むべき課題を提起されました。今後の運動にとって重要な示唆を与えてもらった講演でした。

